

自閉症圏障害の生涯発達とその発達援助方法の開発に関する研究②

代表研究者

東海大学健康科学部社会福祉学科 教授 小林 隆児

1. 研究の背景・目的

われわれはこれまで蓄積してきた発達精神病理学的研究を理論的基盤にして、自閉症の病態の成り立ちと彼らへの発達援助方法を開発するために、この2年間で以下の研究を行ってきた。われわれの目指しているのは、青年期・成人期の自閉症者への療育援助方法の開発のみならず、乳幼児期の自閉症児への早期治療、発達援助方法の開発をも含んでいる。この2年間で以下の研究成果を得た。

2. 研究の成果

(1) 自閉症の長期経過からみた特徴

(イ) 青年期・成人期の自閉症の行動特徴

われわれが先に行った自閉症追跡調査研究(Kobayashi et al., 1992)と同一対象187例に対して、青年期・成人期現在の行動特徴を調査した結果、自閉症の三大症候の中で、常同反復的・強迫的行動が最も残存しやすいことを明らかにし、今後は自閉症の強迫性の成り立ちを解明しうる方向性をもった研究の必要があることを主張した¹²⁾。

(ロ) 折れ線型自閉症の長期予後

これまで折れ線型自閉症の長期予後は不良であるといわれてきたが、先の自閉症追跡調査研究と同一対象による検討によれば、折れ線現象と長期予後との間には、さほど強い相関はみられず、この一群も長期的にみると病態の改善の可能性があることを示した¹³⁾。

(2) 自閉症の発達精神病理学的研究と発達援助の試み

これまでにわれわれが主張してきた自閉症の精神病理現象を発達の視点でもってその成り立ちをいかに考えたらよいか、これまでの知見についてまとめた¹⁴⁾。さらにそれを基盤にした彼らへの発達援助方法について私見をまとめた³⁾。

(3) 自閉症にみられる独特な知覚行動の持つ意味 自閉症にみられる独特な知覚行動を明らかに

するとともに⁹⁾、行動異常の背後に彼ら独特の知覚行動が想定される場合があることを指摘し、「知覚変容現象 perception metamorphosis phenomenon」として概念化した²⁾。

(4) 乳幼児期の自閉症圏障害への母子治療の試み

彼ら独特の知覚様態は、乳児にみられる原初的知覚様態と極めて近似した無様式知覚と考えられることから、養育者との間での愛着形成の有無がこのような知覚様態と密接に関連しているとの仮説を立てた。それをもとに、乳幼児期の自閉症圏障害への母子治療の初期の治療目標を愛着形成に焦点化した試みを開始した。その中で、母子間の愛着形成の問題には、子どもの過敏さとともに、養育者の過去の愛着を巡る内的表象も深く関連していることを指摘した^{9,14)}。そしてこれまでの実践から自閉症の早期治療についてわれわれの現時点での目標とその理論的基盤をまとめて報告した^{16,7)}。

(5) アスペルガー症候群への心理社会的治療

高機能自閉症やアスペルガー症候群に対する心理社会的治療に関する現況と私見を解説した¹⁵⁾。

(6) 自閉症の早期治療の体系化

これまでの早期治療の実践の蓄積を体系化し、関係障害臨床の立場から彼らへの発達援助方法についてまとめた¹⁰⁾。

(7) 自閉症の行動障害に対する治療の体系化

昨今福祉現場で切実な問題となっている行動障害への治療戦略について体系化してまとめた¹¹⁾。

3. 研究の将来計画・課題

自閉症の生涯発達を見据えた発達援助の体系化が、乳幼児期の早期治療および青年期・成人期の行動障害への治療実践を通してほぼまとまった。今後はその成果を国際的視野に立って報告し、その妥当性について検討していくことが必要になろう。さらには福祉現場への普及・啓蒙活動に取り組む必要がある。(完)

発表論文

- (1) 小林隆児 (1998). 母と子のあいだを治療する—Mother-Infant Unit での治療実践から—。乳幼児医学・心理学研究, 7(1), 1—10.
- (2) Kobayashi, R. (1998). Perception metamorphosis phenomenon in autism. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 52(6), 611—620.
- (3) 小林隆児 (1999). 自閉症の人々にみられる愛着行動とコミュニケーション発達援助について。東海大学健康科学紀要, 4(1), 63—75.
- (4) 小林隆児 (1999). 青年期・成人期自閉症の発達精神病理と治療。精神神経学雑誌, 101(1), 71—76.
- (5) 小林隆児 (1999). 自閉症の発達精神病理と治療。東京, 岩崎学術出版社。
- (6) 小林隆児 (1999). 関係障害臨床からみた自閉症理解と治療。季刊発達, 78, 22—35.
- (7) 小林隆児 (1999). 乳幼児期の自閉症圏障害に対する早期介入—自閉症の関係障害臨床—。別冊発達 特別企画「乳幼児精神保健の新しい風」, 24, (印刷中)。
- (8) Kobayashi, R. (1999). Physiognomic perception, vitality affect and delusional perception in autism. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 53(5), 549—555.
- (9) Kobayashi, R. (in print). Affective communication of infants with autistic spectrum disorder and internal representation of their mothers. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*.
- (10) 小林隆児 (印刷中). 母と子のあいだを治療する—自閉症の関係障害臨床論—。京都, ミネルヴァ書房。
- (11) 小林隆児 (準備中). 自閉症と行動障害—自閉症の関係障害臨床—。
- (12) Kobayashi, R. & Murata, T. (1998). Behavioral characteristics of 187 young adults with autism. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*, 52(4), 383—390.
- (13) Kobayashi, R. & Murata, T. (1998). Set-back phenomenon in autism and long-term prognosis. *Acta Psychiatrica Scandinavica*, 98(4), 296—303.
- (14) 小林隆児・財部盛久 (1998). 自閉症児の母親たち—母子治療からみた世代間伝達—。臨床精神医学, 27 (増刊号), 158—165.
- (15) 小林隆児・財部盛久 (1999). アスペルガー症候群—心理社会的治療および薬物療法—。精神科治療学, 14(1), 53—57.